

血液検査基準値一覧表（院内検査）

西宮渡辺心臓脳・血管センター 2022年10月3日改訂

項目名	基準値	検査の意味
WBC (白血球)	3.3~8.6 × 10 ³ /μL	感染症などで身体の中に炎症が起こると高値を示します。
RBC (赤血球)	男性 4.35~5.55 × 10 ⁶ /μL 女性 3.86~4.92 × 10 ⁶ /μL	血球成分です。血液の大部分を占めており、酸素を運搬する役割をします。貧血や赤血球増加症の検査に用います。
Hb (ヘモグロビン濃度)	男性 13.7~16.8 g/dL 女性 11.6~14.8 g/dL	血色素です。貧血の指標となります。
Ht (ヘマトクリット値)	男性 40.7~50.1 % 女性 35.1~44.4 %	血液中の赤血球成分の割合(%)を示しています。
PLT (血小板)	158~348 × 10 ³ /μL	血球成分です。出血を止める上で大きな役割をします。
T-P (血清総蛋白)	6.6~8.1 g/dL	血清中の蛋白質量を見たものです。(主にアルブミンとグロブリンに分けられます)
Alb (アルブミン)	4.1~5.1 g/dL	肝臓で生成される水溶性の蛋白です。栄養状態や肝機能障害の程度を反映します。
A/G	1.32~2.23	血清中の蛋白はアルブミン(A)とグロブリン(G)とに大きく分けられ、A/G比はこの比率を示します。病気によって変化します。
T-Bil (総ビリルビン)	0.4~1.5 mg/dL	黄疸の指標。肝障害、胆汁うっ滞などの肝胆道系疾患、及び溶血性疾患で上昇します。
AST	13~30 U/L	心臓や、筋肉、肝臓、赤血球等に含まれる酵素で、肝疾患、心筋梗塞、心筋炎、溶血性疾患などで上昇します。
ALT	男性 10~42 U/L 女性 7~23 U/L	肝臓に多く含まれている酵素です。他の臓器に含まれている量は少なく、この為肝障害で特異的に上昇します。
γ-GTP	男性 13~64 U/L 女性 9~32 U/L	アルコールを取りすぎると上昇します。また胆汁排泄異常でも上昇します。
ALP	38~113 U/L	肝臓から胆汁中に排泄される酵素で、この排泄異常で血液中に多く出てきます。骨や小腸にも存在します。小児は高値に出ます。(2021年3月より国際臨床化学連合会IFCCに基づいた方法に変更となっており、今までの約3分の1の値となります)
LDH	124~222 U/L	心臓や肝臓、筋肉、赤血球などに多く存在する酵素で、様々な疾患で上昇します。
CK	男性 59~248 U/L 女性 41~153 U/L	骨格筋、心筋、脳などに分布する酵素でこれらの臓器の障害時に上昇します。
CK-MB	~5ng/mL	心筋に多く分布する酵素で、心筋梗塞で高値になります。
アミラーゼ	44~132 U/L	膵臓から出るものと、唾液腺から出るものがあり、どちらの病気でも高値を示します。
T-ch (総コレステロール)	150~219 mg/dL	血中総コレステロールの1/5は食事由来で、残りは主として肝臓で作られます。高値の場合は動脈硬化の原因となります。
TG (中性脂肪)	50~149mg/dL	炭水化物やアルコールの過剰摂取で上昇します。高値の場合は動脈硬化の原因となります。食事の影響を受けます。

項目名	基準値	検査の意味
HDL-C (HDLコレステロール)	40～90 mg/dL	俗に善玉コレステロールと呼ばれるもので、HDLコレステロールが十分あると動脈硬化が抑えられます。
LDL-C (LDLコレステロール)	70～139 mg/dL	俗に悪玉コレステロールと呼ばれるもので、LDLコレステロールが高くなると、動脈硬化の原因の一つとなります。
BUN (尿素窒素)	8.0～20.0 mg/dL	腎機能の指標です。腎機能障害の他に脱水、消化管出血などでも上昇します。
Cre (クレアチニン)	男性 0.65～1.07 mg/dL 女性 0.46～0.79 mg/dL	腎機能の指標です。腎臓の機能が低下すると上昇します。
UA (尿酸)	男性 3.7～7.8 mg/dL 女性 2.6～5.5 mg/dL	過食、大量飲酒、脱水などで高値を示します。また腎機能低下でも高値を示します。また、高値の場合は痛風を起こすことがあります。
Na (ナトリウム)	138～145 mmol/L	体内の水分のバランスが崩れたときに異常値となります。
K (カリウム)	3.6～4.8 mmol/L	
Cl (クロール)	101～108 mmol/L	
Ca (カルシウム)	8.8～10.1 mg/dL	副甲状腺疾患、骨疾患、腎疾患などで異常値となります。
IP (無機リン)	2.7～4.6 mg/dL	内分泌・骨異常を調べる検査です。副甲状腺疾患、腎疾患などで高値を示します。
Mg (マグネシウム)	1.8～2.4 mg/dL	生体の代謝調節を担う金属元素です。副甲状腺疾患、甲状腺疾患で異常値を示します。
CRP	～0.14 mg/dL	感染、炎症、組織障害時(心筋梗塞、手術など)で上昇します。
グルコース(血糖)	73～109 mg/dL	糖尿病の診断や経過観察の指標になります。食事の影響を受けます。
HbA1c	4.9～6.0 %	過去1ヶ月から3ヶ月前の血糖値の状態を推測できます。
NT-proBNP	～125 pg/mL	心臓への負荷の有無やその程度を知ることができます。心不全の指標として使用されます。
トロポニンT	～0.016ng/mL	心筋の構成成分です。急性心筋梗塞や不安定狭心症など、心筋に障害があると上昇します。
PT (プロトロンビン時間)	10～13秒	出血を止める作用を調べる検査の一つであり、ワファリン治療の際にはPTの値により投与量を調節します。
APTT	24.3～35.0秒	凝固因子の異常を調べる検査です。血液が凝固しにくくなると延長します。
フィブリノゲン	169～515 mg/dL	肝臓で作られ様々な病態を反映します。
アンモニア	～75 N-μg/dL	肝機能の重症度を知ることができます。

※個人の生理変動で左右する項目もあります。あくまで目安として考えてください。
詳しい説明は主治医にお尋ねください。